

重要なお知らせ；ソフトウェアに起因する現象のご連絡

SW1A 形 Automation Organizer FC6A 形 MICROSmart

Automation Organizer に収録の FC6A 形 MICROSmart において、以下4件の現象を確認いたしました。対象製品をご使用のお客様は以下に記載している内容をご確認の上、ご対策くださいますようお願いいたします。

現象一覧

No.	現象	現象修正バージョン	リリース日
1	キーデータエラーが発生した時、ウォッチドッグタイマエラーを誤って記録することがある。	・FC6A 形 All-in-One CPU モジュール システムソフトウェア Ver.2.30	2021 年 3 月
2	ニーモニックに変換したスクリプトの合計サイズが 128KB を超えた場合、スクリプトを実行するとエラーが発生する。	・FC6A 形 CAN J1939 All-in-One CPU モジュール システムソフトウェア Ver.2.30 ・FC6A 形 Plus CPU モジュール システムソフトウェア Ver.1.81	
3	Modbus TCP 通信で、通信エラーまたはデバイスへの不定な値の格納が発生することがある。	・FC6A 形 Plus CPU モジュール システムソフトウェア Ver.1.81	2021 年 3 月
4	履歴データと連携するユーザーWebページの表示と DLOG 命令を同時に実行した場合、履歴データの書き込みまたは Web ページによる CSV ファイルオープンに失敗することがある。		

対策方法

Automation Organizer Ver. 3.22.0 に同梱される下記バージョンのソフトウェアで対応しております。

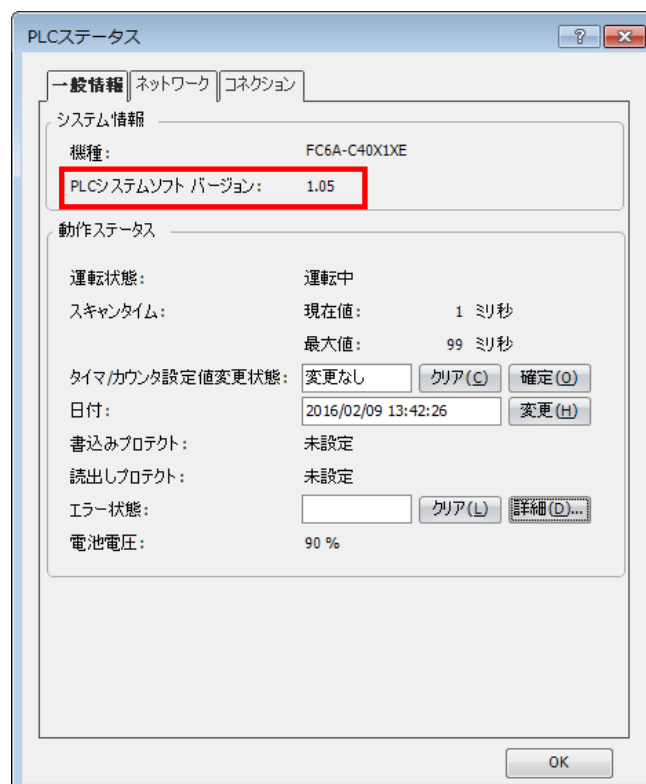
<input type="checkbox"/> FC6A 形 All-in-One CPU モジュール	システムソフトウェア Ver.2.30
<input type="checkbox"/> FC6A 形 CAN J1939 All-in-One CPU モジュール	システムソフトウェア Ver.2.30
<input type="checkbox"/> FC6A 形 Plus CPU モジュール	システムソフトウェア Ver.1.81

弊社ホームページ「IDEC メンバ サイト」より上記のバージョンまたはそれ以降のバージョンのインストーラ【システム統合ソフトウェア Automation Organizer アップデート版】をダウンロードし、インストールしてソフトウェアをアップグレードしてください。

<https://jp.idec.com/idec-jp/ja/JPY/RD/software/automation-organizer>

システムソフトウェアのバージョン確認手順

お手元の FC6A 形 CPU モジュールのシステムソフトウェアのバージョンは、WindLDR の PLC ステータス画面でご確認いただけます。



図序ー1：PLC ステータス画面

No.1

【対象製品】

- ☐ FC6A 形 All-in-One CPU モジュール Ver.1.02～Ver.2.21
- ☐ FC6A 形 CAN J1939 All-in-One CPU モジュール Ver.1.02～Ver.2.21
(Automation Organizer Ver.3.10～Ver.3.21.0/ WindLDR Ver8.0.0～Ver8.17.0)

- ☐ FC6A 形 Plus CPU モジュール Ver.1.00～Ver.1.80
(Automation Organizer Ver.3.9.0～Ver.3.21.0/ WindLDR Ver8.6.1～Ver8.17.0)
製品形番：SW1A-W1C

※弊社ホームページ「IDEC メンバサイト」からダウンロードしたソフトウェアも含まれます。

上記バージョンのソフトウェアを使用している場合、以下の機種で現象が発生します。

機種	形番
FC6A 形 All-in-One CPU モジュール	FC6A-C16***E FC6A-C24***E FC6A-C40***E
FC6A 形 CAN J1939 All-in-One CPU モジュール	FC6A-C40***EJ
FC6A 形 Plus CPU モジュール	FC6A-D16**CEE FC6A-D32**CEE

【現象】

キーボードエラーが発生した時、実際には発生していないウォッチドッグタイマエラーが一般エラーコードに記録されることがあります。

【暫定的な回避方法】

回避方法はありません。「対策方法」に記載の恒久対策を実施してください。

No.2

【対象製品】

- ☐ FC6A 形 All-in-One CPU モジュール Ver.1.02～Ver.2.21
- ☐ FC6A 形 CAN J1939 All-in-One CPU モジュール Ver.1.02～Ver.2.21
(Automation Organizer Ver.3.10～Ver.3.21.0/ WindLDR Ver8.0.0～Ver8.17.0)

- ☐ FC6A 形 Plus CPU モジュール Ver.1.00～Ver.1.80
(Automation Organizer Ver.3.9.0～Ver.3.21.0/ WindLDR Ver8.6.1～Ver8.17.0)

製品形番：SW1A-W1C

※弊社ホームページ「IDEC メンバサイト」からダウンロードしたソフトウェアも含まれます。

上記バージョンのソフトウェアを使用している場合、以下の機種で現象が発生します。

機種	形番
FC6A 形 All-in-One CPU モジュール	FC6A-C16***E FC6A-C24***E FC6A-C40***E
FC6A 形 CAN J1939 All-in-One CPU モジュール	FC6A-C40***EJ
FC6A 形 Plus CPU モジュール	FC6A-D16**CEE FC6A-D32**CEE

【現象】

プログラムに含まれるスクリプトの合計サイズが 128KB を超えた場合、SCRPT 命令を実行するとユーザープログラム実行エラーが発生することがあります。

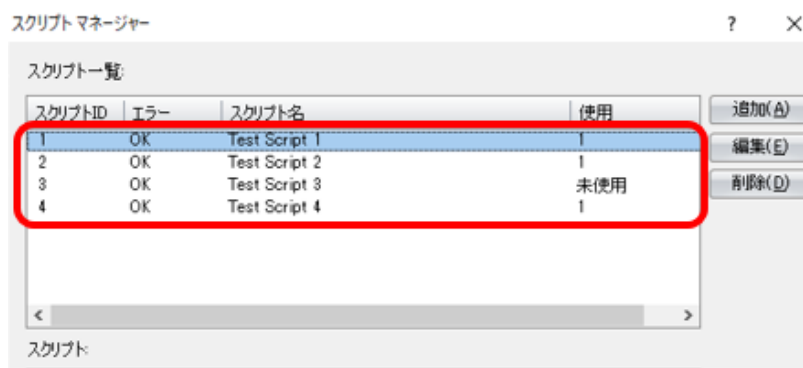


図 1-1：合計サイズの計算対象となるスクリプト

なお、スクリプトの合計サイズは、直接確認できません。次の手順で確認してください。

1. 対象のプロジェクトを開く。
2. 変換ボタンを押し、プログラムを変換する。



図1-2：プログラムの変換ボタン

3. スクリプトを含むプログラムサイズ (①) を確認する。

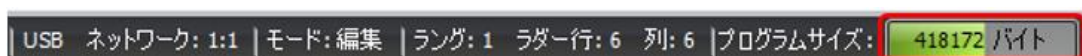


図1-3：プログラムサイズ (①) の例

4. スクリプトと SCRPT 命令を全て削除する。
5. 変換ボタンを押し、プログラムを変換する。
6. スクリプトを含まないプログラムサイズ (②) を確認する。



図1-4：プログラムサイズ (②) の例

7. プログラムサイズ (①) からプログラムサイズ (②) を引くことで、スクリプトの合計サイズを概算する。

例： $418172 - 384000 = 34172$ バイト

【暫定的な回避方法】

回避方法はありません。「対策方法」に記載の恒久対策を実施してください。

No.3

【対象製品】

- FC6A 形 Plus CPU モジュール Ver.1.20～Ver.1.80
 (Automation Organizer Ver.3.12.0～Ver.3.21.0/ WindLDR Ver8.9.0～Ver8.17.0)
 製品形番：SW1A-W1C
 ※弊社ホームページ「IDEC メンバサイト」からダウンロードしたソフトウェアも含まれます。

上記バージョンのソフトウェアを使用している場合、以下の機種で現象が発生します。

機種	形番
FC6A 形 Plus CPU モジュール	FC6A-D16**CEE
	FC6A-D32**CEE

【現象】

稀に以下の現象が発生することがあります。

- Modbus TCP クライアントのとき、Modbus TCP サーバーからデータを読み出すと、デバイスに不定な値が格納されることがあります。
- Modbus TCP クライアントのとき、受信タイムアウトエラーが発生することがあります。
- Modbus TCP サーバーのとき、Modbus TCP クライアントからのリクエストに 응답しないことがあります。

【暫定的な回避方法】

回避方法はありません。「対策方法」に記載の恒久対策を実施してください。

No.4

【対象製品】

- FC6A 形 Plus CPU モジュール Ver.1.50～Ver.1.80
 (Automation Organizer Ver.3.17.0～Ver.3.21.0/ WindLDR Ver8.13.0～Ver8.17.0)
 製品形番：SW1A-W1C
 ※弊社ホームページ「IDEC メンバサイト」からダウンロードしたソフトウェアも含まれます。

上記バージョンのソフトウェアを使用している場合、以下の機種で現象が発生します。

機種	形番
FC6A 形 Plus CPU モジュール	FC6A-D16**CEE
	FC6A-D32**CEE

【現象】

DLOG 命令で履歴データを記録すると同時に、その履歴データと連携する部品（※）を 5 個以上配置したユーザーWeb ページを開くと、以下の現象が発生することがあります。

- DLOG 命令で履歴データを記録できなくなり、電源 OFF/ON しないと復旧しない。
- ユーザーWeb ページで CSV ファイルオープンエラーが発生する。

※トレンドバー、稼働状況グラフ、表部品

【暫定的な回避方法】

DLOG 命令で記録中の履歴データと連携するユーザーWeb ページ上の部品を、2 個までとしてください。